

令和4年度 幼児教育研修（年齢別担任研修3歳児）全3回まとめ
「子どもの発達と保育者の関わりについて」

講師：東京都立大学 准教授 田中 浩司 氏



● 3歳児の特徴

誇り高き3歳児

3歳児は自信の高まりがピークの時代。2歳児とは違い、自分の身のまわりのことができるだけでは、自分の誇りを十分に発揮したことにはなりません。



例えば・・・

食べきれなかったとしても、一人前の食事を注文してもらわないと納得できないなど



自分の表明としてのこだわり

独自のルールができる事があ
ります。ゼットイの中に、拡大
しつつある自分を表現してい
ます。



例えば・・・

ゼットイにこの場所！という座席の位置のこだわりやゼットイにこの遊びには参加しないなど

思いと現実の間で戸惑う姿

3歳児になり先を見通す力がついてくることによって、無鉄砲な行動が収まってきます。一方で、上手くいかないかもしれないという不安や恐れが生まれてきます。



例えば・・・

鬼ごっこのような遊びへの参加を躊躇したり、捕まった時に激しく怒ったり泣いたりするなど



★遊びたがりの3歳児の自我を大切にするために・・・★



意欲を引き出す言葉かけ

「〇〇できたね。」と出来た事を伝えると、子どもの意欲が高まります。「お兄さんみたいに大きくなるね。」と大きくなる自分が意識できるような言葉かけも大切です。

子どもがルールを発見できる言葉かけ

「〇〇はどうしたらいいかな？」と、子どもたちを話し合いに巻き込んでいきます。子どもたちが「自分の意見が大切にされている。」と感じられるように関わります。

● 3歳児の遊び

■■鬼ごっこ（ルールのある遊び）■■

- ・ 3歳児は言葉だけでルールを理解するのは難しい。
- ・ 保育者や年上の子どもたちの姿を見て、「楽しそうだから、やってみよう。」と興味を示す。
- ・ 逃げるから追いかける。追いかけられるから逃げる。と周りの動きを手掛かりに繰り返し遊ぶ中で、ルールを覚えていく。⇒（ルールの相補性）

◆遊びの中の泣き・・・自分はどうしたいという思いが出てきている。

子どもの気持ちを受け止めて共感してあげることが大切です。



■■困いを作る遊び■■

- ・ 困いを作ると、内と外が明確になり、内側にいると安心感がある。
- ・ 遊びながら、自分と相手を区切り、自分たちというカテゴリーを作っている。

■■〇〇しながら〇〇できる■■

- ・ リズムに合わせて動き回ることなど、意識的に身体をコントロールすることが出来るようになる。

■■言葉を深める■■

- ・ 絵本の中には、普段使わない面白い言葉がある。面白さは、曖昧に使っている言葉の意味を深める好奇心の原動力。



●保育者の関わりから見えてきたキーワード

見守る

- ・保育者は、子どもにどんな経験をして欲しいのか意図をもって見守ることが大切。
- ・子どもの心の動きに沿いながら「こうなるかな？」と見通しをもつ。
- ・他の保育者から見ると保育の意図は見えずらい。だからこそ、職員同士の信頼関係が大事。

学びにつなげる「タイミング」

- ・3歳児にとって、不思議から解決までの時間は短時間で言う方がよい。
- ・子どもが考える間をもたせることも大切。保育者が結論を急いでしまうと、子どもの考えるゆとりがありません。
- ・「今だ。」のタイミングが分かるのは、子どもの姿をよく見ている保育者。

●こんな時 子どもの姿をどう理解する？

「ぜったいこの場所！」
「ぜったいこの服！」・・・と
こだわりが強い、どう
したらいいの？

もうすぐ給食の時間だけど、お部屋
に入ってきてくれないの・・・
どうしたらいいの？
(場面の切り替え)

3歳児は自分を主張したい時期で、明確な自我がでてきます。子どものこだわりには保育者が頑なにならずに、一緒に面白がったり、共感したりすることが大切です。

子どもが遊びきれているかがポイントです。じっくり遊べる時間があったのか？この遊びに満足できたのか？・・・と、子ども側に立って考えてみましょう。子どもは遊びに満足していると、気持ちが切り換えやすくなり、次の行動に繋がります。

●生命（いのち）の安全教育

プライベートゾーンは、特別な人や場合にしか、見せたり触らせたりしないように伝える。他の人にも、同じように了解なしに見たり触ったりしてはいけないことを伝える。

自分が大事にされているという感覚が大事。

不快なふれあいであれば、明確に拒否する態度と言葉を獲得する表現を具体的に知らせ、言語的に表現できるようにする。

嫌な事は嫌だとはっきり伝えるようにする。

まとめ

3歳児は自我をはっきりと主張し

自分をつくろうとする時期

保育者は、その子のこだわりや子ども同士のトラブルに、すぐに反応するのではなく、見守り、子どもの思いや考えを汲み取り、しっかりと受け止めて関わるのが大切です。

◆◆ 研修生の報告書より ◆◆

3歳児は自分をつくる時期で、様々なこだわりやトラブルが多くなるが認めながら見守っていきたいです。子ども同士のどんな行動・言葉のやり取りが始まるのかを見守っていきたいです。

エピソード記録を活用し客観的に子どもの思いや保育者の気づきを知る事ができました。自園の子どもたちにも同じような姿が見られるので、具体的な関わり方が分かり参考になりました。